

human

No243

2012/7

医療を通じて人と人とのふれあいを広めるために
ヒューマン(人)と名付けました。



「がんセンター全景」

救急指定・労災指定病院	さくら総合病院	愛知県丹羽郡大口町新宮1-129 (0587)95-6711(代)
老人保健施設	さくら荘	愛知県丹羽郡大口町新宮1-96 (0587)95-6722
訪問看護ステーション	あすかビレッジ	愛知県丹羽郡大口町新宮1-10(太郎と花子内) (0587)95-8623
ヘルパーステーション	あすかビレッジ	愛知県丹羽郡大口町新宮1-10(太郎と花子内) (0587)95-8026
居宅介護支援事業所	あすかビレッジ	愛知県丹羽郡大口町新宮1-10(太郎と花子内) (0587)95-8027
デイケアセンター	御 嶽	愛知県丹羽郡大口町新宮1-129(さくら総合病院2F) (080)5294-5728
有料老人ホーム	太郎と花子	愛知県丹羽郡大口町新宮1-10 (0587)95-0111



<http://www.ijinkai.or.jp>

E-mail: info@ijinkai.or.jp

国立がんセンター中央病院

外科部長 小林 豊

東京は築地、というと築地市場がまず頭に浮かぶ。

「東京の台所」と呼ばれるこの市場、その面積は23ヘクタールに及び、世界最大の市場である。この市場の正門も真迎えに国立がんセンター中央病院（現、国立がん研究センター中央病院）はある。1962年に開院したこの病院は、日本に6つしかない厚生労働省直轄のナショナルセンターと呼ばれる国立高度専門医療センターの一つである。ちなみにあとの5つは、国立循環器病センター、国立精神・神経医療センター、国立国際医療センター、国立成育医療センター、国立長寿医療センターである。いまは、それぞれの施設は独立行政法人化し、がんセンター同様、「研究」の二文

字が加えられている。

税金を惜しみなく使ったその建物は、1998年に新築されたばかりの新棟で、中はホテル並み、建物と設備は世界一と評された。私がこの門を叩いたのは、2003年の6月であった。まだできて5年ばかりのこの建物のあまりの大きさと綺麗さに圧倒されながら、そこでの研修に心を躍らせていた。私と同様全国から様々な学年の若手外科医17人が外科レジデントとして集結した。腫瘍の内科的治療を志す内科レジデントと共に、国立がんセンター中央病院第35期レジデントとして入門したわけである。なお、さくら総合病院院長は第5期の国立がんセンター

レジデントであるから、30期先輩ということになる。後述するような劣悪な労働環境のレジデント制度に我こそは、と全国から応募して集まってくるわけだから、彼らのキラクタイは個々に大したもの、血気盛んを具現化したようなやつらの集団であった。私はなぜか同期の中から期長に推され、この獐狂な連中をまとめる学級委員長に選ばれた。最も真面目でまともであったから、と私は信じているが、これを肯定する同期は未だにいない。飛ぶ鳥を落とす勢いの連中を束ねるのは、なかなか大変であったが、結束した時の力強さは並外れたものであった。

労働環境は、その時に身を置く科にもよるが、朝は6時から夜中の24時は当たり前。身分は非常勤の国家公務員という扱いで、

契約上は9時から15時半までで、給与は時給のその契約時間分のみであった。朝も夜もサービスタime出勤であった。大の医者にも関わらず、当時の手取りが16万17万であったのを克明に覚えていて、厚生労働省直轄の病院で、である。同じ傘の下に労働基準局があるはずの病院で、である。皆、貯蓄を削りながら研修に勤しむのであるから、我ながら大した連中の集まりである。現在は、レジデントの給与は大幅に改善されている。

国立がんセンター中央病院は、多くの科で日本一の症例数を誇った。当時で、胃外科が年間約5500件、大腸外科が年間5000件、肺がんが年間5000件ほどであった。当時2位の病院の倍近くの症例であったことからその多さは

わかる。この日本一の症例数を安月給の若手外科医が支えていた、という日本の医療の現実を皆さんには理解していただきたい。第一線の他の病院の何倍もの経験を積める、という理由だけで、そこに集まるのである。三年間の修練期間のうち、最初の一年は診断部門や検査部門をまわり、がんの診断や検査をくまなく習得する。その後二年は各臓器の外科をまわり手術の技術を習得する。この病院には、日本のがん治療の中心的役割を担う高名なベテラン医師が沢山いて、彼らから直に指導を受ける。彼らもまたなかなかのキャラクターの人たちであるが、皆共通して気さくで、いまでも学会などで会うと一緒に談笑して飯や酒を共にする。こんな連中が日本のがん治療のガイドラインの作成や世界に発信できる数少ない信憑性のある臨床試験の中心を担っている人が少なくなく、単に手術の技

術だけでなく研究にも長けていた。彼らの視線は、手術も研究も日本の先頭を行くことではなく、常に世界に向いている。この三年間で多くの経験を積み、その代わりに多くの貯金をなくして、ほとんどの若手医師が地元へ帰って行った。私とあと数人は、懲りもせず、その三年の後のもう一つ上の二年間の修練コースへ進んだ。

この二年の修練コースは、がん専門修練医といい、通称チーフレジデントと呼ばれる。一年間は専攻コースで手術を徹底的に学び、患者さんの術前術後管理の責任者を努め、同時にレジデントを指導する。二年目は臨床から離れ、何かしら研究をすることが義務づけられている。私は、一年目は大腸外科に身を置き、二年目は病理部門（病気を細胞レベルで診断し、病気の特徴を探求する学問）で診断と研究を学んだ。レジデ

ントとチーフレジデントの五年間のうち、手術に従事したのは三年間であったが、その三年間で自分が直接手を下した手術は大腸外科約400件、胃外科100件、呼吸器外科70件、肝胆膵外科50件、泌尿器科30件で、合計650件にも及んだ。レジデントの一年目に病理部門を半年回り、チーフレジデントの二年目の一年間も同じく身を置いたので、合計一年半病理診断と病理研究を行った。大学院の卒業時はこの病理研究の論文で医学博士の学位を取得した。病理の師匠は、日本の消化管病理の重鎮で名実共にトップの先生であった。WHO（世界保健機関）が発刊する、世界の病理の基準となる大全集があるが、その先生のお陰で、私の論文を載せていただいたことは光栄の極みであった。

私は、国立がんセンターで手術手技を学び、診断や検査を習得し、研究の

イロハや進め方を学習したわけであるが、いずれの経験も何にも代え難い貴重なもので、今の診療の礎となつてゐる。しかしながら、がんセンターで得た最も大事なものは、高名な先生や同期をはじめとする仲間、であり、彼らとは生涯の付き合いとなるであろう。さくら総合病院では、私のがんセンターに入つた年から、毎週末の外科の当直をがんセンターレジデントに来ていただいている。今年でそんながんセンターレジデントの当院への当直派遣も十年目を迎え、今年第44期レジデントが来てくれていて、彼らにより当院における週末の救急医療の一部を支えられている。この場を借りて、彼らに感謝の意を表す。

今後とも、私体が得た多くの技術と知識は、日々の診療に生かして、市民の皆さんに享受してもらいたいと思う。

自己紹介

消化器外科 小林奈々

はじめまして。5月10日よりこちらの病院で勤務することになりました小林奈々と申します。専門は消化器外科、外科です。

出身は日本大学医学部であり、卒業後2年間日本大学板橋病院で研修を行いました。その後、日本大学消化器外科に入局し様々な患者さんに出会い貴重な体験と糧となるトレーニングを受けて参りました。

大口町といいましたら3歳の頃に病院裏に暮らしていたことを覚えております。カエルやザリガニと共に遊んだり、野いちごを食べたりして楽しい日々を過ごしました。現在の旧救急棟がクリニックであった時のことです。今は大分様変わりをしており時間の流れを感じるのですが、先日当直勤務をしていた時にふと虫の音を聞き懐かしい気持ちでいっぱいになりました。素晴らしい自然が残るこの大口町で微力ながらも地域医療に貢献することができれば幸いです。

今回、さくら総合病院で勤務することとなり、初心に戻り“患者さんと共に病気に向き合っていく”をモットーに笑顔と元気を忘れずに日々努めていきたいと思っております。何か疑問、不安等がありましたら些細なことでも結構ですので気軽にご相談ください。どうぞ宜しくお願い致します。

自己紹介

事務長代行 細谷博三

5月よりさくら総合病院に入職させて頂きました細谷博三と申します。医仁会で働く皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

昭和30年静岡県浜松市生まれの56歳です。(気持ちは40歳くらいのつもりでいます)

母親と妻と子供2人の5人家族なのですが、社会人の息子は千葉へ、大学生の娘は東京へ、其々出て行ってしまった為、今は残された3人でひっそりと稲沢に暮らしております。

趣味はバイクツーリングとテニスです。バイクはドラッグスター400に乗っていましたが、東京に単身赴任する際に手放してしまい、今はバイク無しバイカーです。いつかハーレーダビッドソンで北海道一周ツーリングしたいという夢を叶える為に、昨年大型自動二輪の免許を取得しました。バイク好きの方がいらっしゃいましたら是非よろしくお願いいたします。テニスは大学時代からかなりハードに打ち込んできました。学生時代はテニススクールでコーチのバイトもやっていましたので、初心者に教えるのは上手だと思います。これからの季節は高原での避暑地テニスが最高です。テニス仲間が集まる機会などありましたら是非お声掛け頂ければ幸いです。

さて、縁あって医療機関で働かせて頂くことになった私ですが、今までの社会人人生30年余りはずっとIT業界で過ごして参りました。IT業界の中でも人材育成・教育研修の仕事に長く携わってきました。人を大切に思う優しさと寛容力とに裏打ちされた厳しさこそが、人を育てる上での要諦であると自らの経験から学んで参りました。

人は育成の仕方によって様々な人材(人財・人在・人罪)に変わって行きます。より多くの人財(人の宝)を育てることが組織の強化につながるものと信じております。

病院勤務が初めての私はまだ人在(いるだけの人)でしかありません。一日も早く医仁会の人財となれるよう努力研鑽を重ねたいと思っております。皆様にはどうぞ優しさと寛容を以って宜しくご指導のほどお願い申し上げます。

「第3回市民公開講座」を終えて・・・

6月9日(土曜日)に健康文化プラザ・ほほえみホールで開催しました「第3回 市民公開講座」では多くの方にご参加を頂きありがとうございました。無事開催ができ、盛況のうちに終わることができました。

※今回の公演内容

「みんなの常識 医療の非常識」……………小林外科部長
 「薬の飲み方・飲み合わせ」……………野田薬剤師
 「自宅で出来るリハビリテーション～転倒しない・させないために～」……………大田理学療法士

今後も地域の皆様に「総合病院ができること」として、いろいろと役立つ医療の情報をお知らせしていきたいと思っております。第4回目は秋ごろを予定しております。詳細が決まりましたらお知らせ致しますので、皆様お誘い合わせの上、是非ご参加ください。

150人の皆様にご参加くださいました。



第16回 「健康を守る教室」

テ — マ：『熱中症とその対策』&セラバンドを使用した体操
 日 時：平成24年7月28日 土曜日 13:00～14:00(受付12:30～)
 場 所：新館1F
 講 師：管理栄養士 藤川 理学療法士 磯村
 参 加 料：無料
 お問い合わせ：受付窓口もしくは医療相談室 Tel 0587-95-0015

熱中症の予防を考えていただきたい季節になってまいりました。
 年々、気温の高い日が多くなり、熱中症の発生が増えています。
 今回は、熱中症の予防法・対処法について管理栄養士からお話をさせていただきます。
 電気料金が上がるらしい今年の夏、節電が叫ばれる日々です。
 是非この機会に熱中症について知っていただき、一緒に暑い夏を乗り切りましょう!

※健康を守る教室の体操コーナーでおなじみのセラバンドを健康教室終了後に下記価格で販売をいたします。
 ご希望の方はお申し出下さい。 黄色(弱)400円 緑色(中)460円 青色(強)520円

診療科表

平成24年7月1日現在

	午後												
	9:00~12:00			11:45迄		9:00~11:45		11:30迄		11:45迄			
消化器病 外傷 セクター	内科 呼吸器 総合内科 セクター	運動器 形成 セクター	脳卒中 脊髄 セクター	神経 糖尿病 感染症 セクター	ストラス 外来	子ども女性疾患 セクター		ペイン クリニック セクター	皮膚疾患 セクター	耳・鼻・ 喉疾患 セクター	腎尿管 疾患 セクター	目の 疾患 セクター	
						子ども セクター	女性疾患 セクター						
月	○	○	○	○	○	○	○ 受付 11:45迄	○	○	○	○	○	
火	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
水	○	○	○	○	○	○	○ 9:00~ 11:45	○	○	○	○	○	
木	○	○	○	○	○	○	○ 受付 11:30迄	○	○	○	○	○	
金	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
土	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

- ※1 休日あり ※2 祝日診療あり(9:00~11:00)
- 診療時間は、診療科目により異なります
- 不明な点がある場合は、職員にご確認ください
- 診療日が変更になる場合があります ご了承ください

機関紙 発行 医療法人 医仁会 電話 0587(95)6711(代)
human ヒューマン さくら総合病院 発行年月日 2012年7月1日
No.243 丹羽郡大口町新宮1:129 発行部数 350部